模様織りを織るための条件と織り図の見方

• 使用した織り機とたて糸の数

本書のモチーフは２枚ソウコウの卓上織り機（P.8の「咲きおり」）あるいはプラスチック製の小さな織り機（P.9の「ミニ織り」）を使って織っています。「ミニ織り」では、かけられるたて糸の最大本数が27本であることから、すべてのモチーフのたて糸は26本か27本になっています。卓上織り機の場合は「ミニ織り」の密度に合わせて20羽ソウコウを使いました。

まずは本書のモチーフと同じサイズで織ってみて、模様の柄の出方などを試してみましょう。その後、卓上織り機ならたて糸を増やして織り地の横幅を広げるなど、アレンジすることができます。

• 糸の条件を揃える

本書では、模様織りの柄の比較をしていただくために一定の条件を揃えました。使用糸は極太綿糸（75m/100g）と並太綿糸（43m/20g）を中心に使っています。中細綿糸（108m/25g）はオーバーショットのタビー糸として使い、つづれ織り、ブンデンローゼンゴンなどたて糸の見えない織り方のたて糸は並太綿糸を使っています。またノット織りとループ織りのよこ糸には並太毛糸（100m/40g）を使っています（糸について詳しくはP.28参照）。

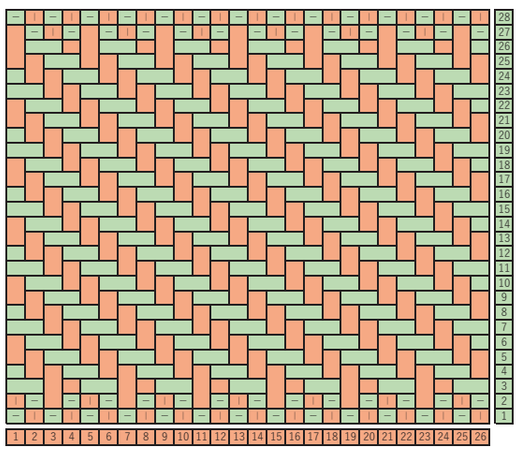
• 織り図の見方と数字表への置き換え方

本書の織り図は表面に見える糸色で表していて、下から上に織り進めていきます。表の下にある数字と色はたて糸の本数と糸色を、表の右側にある数字と色は段数とよこ糸の糸色を示します。また、織り図を見ながら織るもうひとつの方法として数字表に起こすこともできます。

例１）

P.118のモチーフ92、２/2綾織りは織り図1 ～２段目で平織りを織った後、３～６段目の４段が１パターンです。その１パターンを右下のような数字表に置き換えてみました。このマス目の中央の赤い横線は、閉じた状態のたて糸を表し、数字はよこ糸の動きを表しています。

①３段目の場合、右側（赤い数字）からたて糸を2本飛ばし、２本拾うのを繰り返します。②４段目は右から１本拾い、２本ずつ飛ばすと拾うを繰り返し、左端の１本を飛ばして完了です。拾う作業はピックアップスティック（P.28参照）があると便利でしょう。



（モチーフ92の数字表）

④6段目

1		2		2		2		2		2		2
	2		2		2		2		2		2	1

③5段目

2		2		2		2		2		2		2
	2		2		2		2		2		2	

②4段目

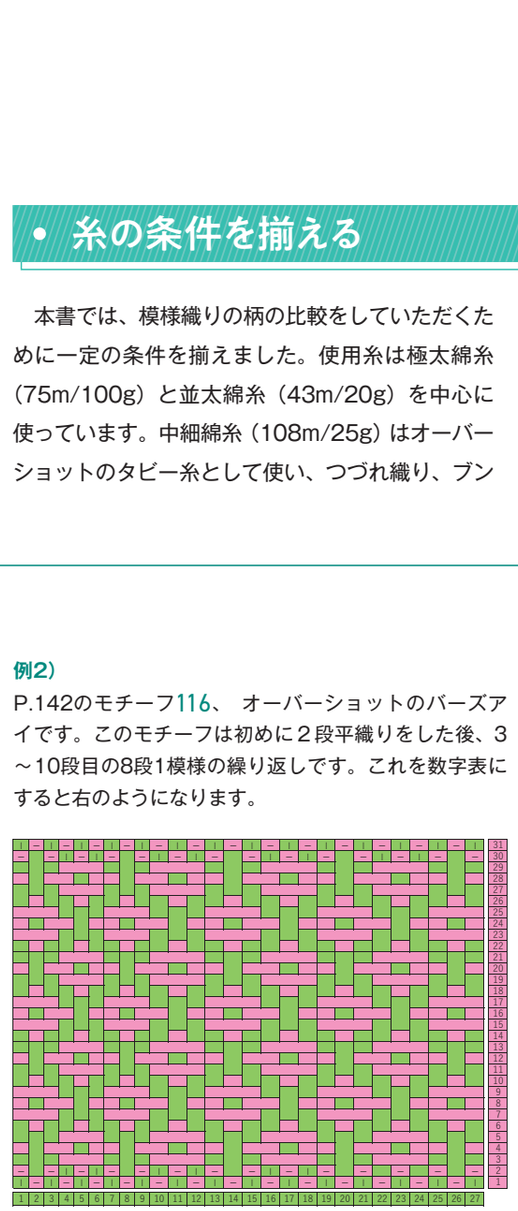
	2		2		2		2		2		2	1
1		2		2		2		2		2		

①3段目

	2		2		2		2		2		2	
2		2		2		2		2		2		2

例2）

P.142のモチーフ116、 オーバーショットのバーズアイです。このモチーフは初めに２段平織りをした後、３～10段目の8段1模様の繰り返しです。これを数字表にすると右のようになります。



（モチーフ116の数字表）

⑧10段目（6段目と同じ）

	1		1		1		1		1		1		1		1		1		
1		2		2		2		2		2		2		2		2		2	1

⑦9段目（7段目と同じ）

3		3		3		3		3
	3		3		3		3	

⑥8段目（4段目と同じ）

1		2		2		2		2		2		2		2		2		2	1
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		

⑤7段目

3		3		3		3		3
	3		3		3		3	

④6段目

	1		1		1		1		1		1		1		1		1		
1		2		2		2		2		2		2		2		2		2	1

③5段目

	3		3		3		3	
3		3		3		3		3

②4段目

1		2		2		2		2		2		2		2		2		2	1
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		

①3段目

	3		3		3		3	
3		3		3		3		3

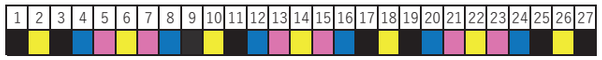
79



79

ブンデンローゼンゴンでチューリップを表現してみました。たて糸の色の順番は78と同じ、糸を落とす順番も同じグループです。

たて糸配色図（78・79・80・81 共通）



Memo

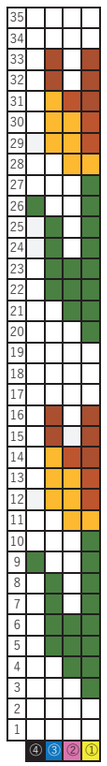
78 ～ 91 は「咲きおり」などの卓上織り機を使い、房は裏側で織り地の中に縫い込んで始末しています。端から端までみっちり織るので、「ミニ織り」を使う場合は半分くらいの高さのサイズにするとよいでしょう。

Color&Yarn Variation

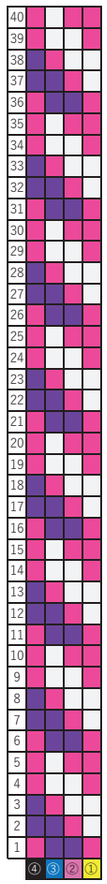


よこ糸配色図

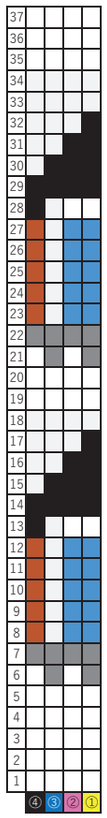
79



80



81



80

具象柄ではなく幾何学模様のブンデンローゼンゴンです。Vの字に模様が出るようにデザインしました。よこ糸の配色位置を変えるだけでもイメージは変わります。

Color&Yarn Variation



81

連なる家並みをモチーフにしました。78、79、80と、この81を含めた４点は同じグループです。よこ糸を入れる色や順はそれぞれ異なりますが、たて糸も織り方も同じです。

Color&Yarn Variation



80



81



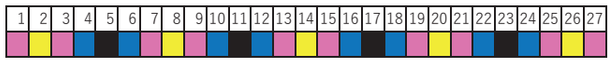
82



82

この82と83、84までの3点がブンデンローゼンゴンの2パターン目のグループで、4色のたて糸を使った幾何学模様のモチーフです。波のようにジグザグと動くさまを表しました。

たて糸配色図（82・83・84 共通共通）

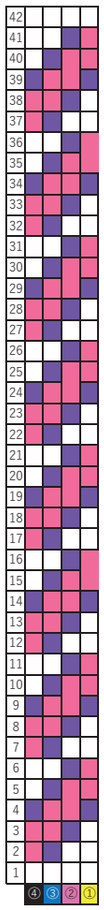


Color&Yarn Variation

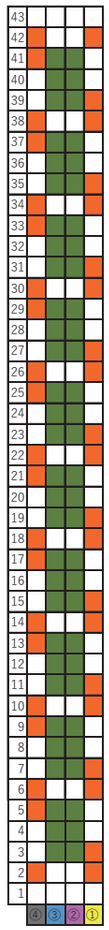


よこ糸配色図

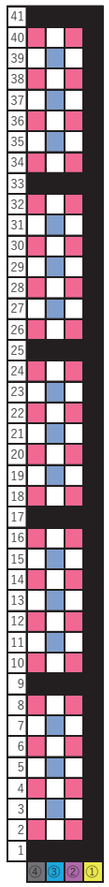
82



83



84



83

小さなブロック模様のブンデンローゼンゴンモチーフです。82、83、84は同じグループなのでたて糸も織り方も同じ。84は大きなブロックですが、小さなブロックと大きなブロックを交互に織ることもできます。

Color&Yarn Variation



84

大きなブロックをモチーフにしました。ブロックが大きいとその中に別の柄を入れることもできます。ブンデンローゼンゴンは工夫次第なのでいろいろ組み合わせてみるとよいでしょう。

Color&Yarn Variation



83



84





85



86

85

P.104 ～ 109で紹介したブンデンローゼンゴンは４回織って1段でしたが、85～91は6回織って1段になります。その分具象柄ができます。かわいらしいパンダをモチーフにしました。

Color&Yarn Variation



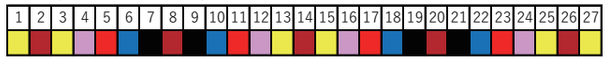
86

ヒツジをモチーフにしました。ブンデンローゼンゴンの織り図は使用する糸によって織り図通りに織っても同じバランスのヒツジ柄になるとは限りません。まずは簡単な柄から始めて、自分で微調整するようにしましょう。

Color&Yarn Variation

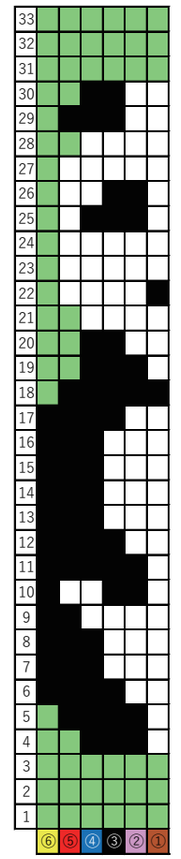


たて糸配色図（85・86・87・88 共通） ※たて糸は６色用意する

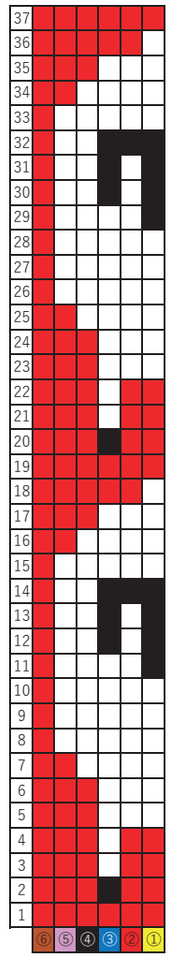


よこ糸配色図

85



86





87



88

87

ボタニカルをモチーフにしました。このモチーフはバランスの微調整がしやすいので、もし85・86のパンダやヒツジを織りたいなら、この柄で手持ちの糸での微調整を確認するといいでしょう。

Color&Yarn Variation



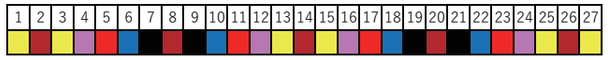
88

果実のなる樹木をモチーフにしました。85、86、87とこの88は、たて糸と織り方が同じパターンのグループです。卓上織り機でたて糸を長くかければ、この４種類のモチーフを続けて織ることができます。

Color&Yarn Variation

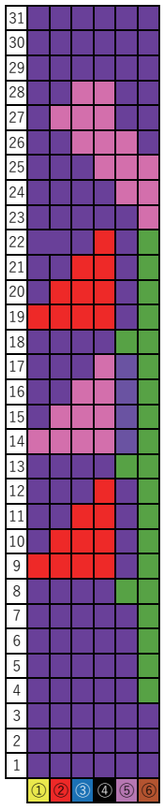


たて糸配色図（85・86・87・88 共通）

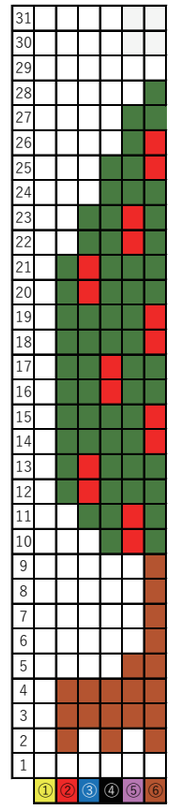


よこ糸配色図

87



88



89



89

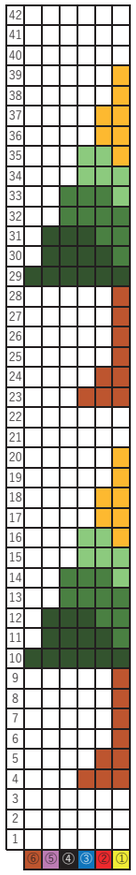
ツリーをモチーフにしたブンデンローゼンゴンです。これは冬のイメージの色合いですが、よこ糸の色や背景の色を変えれば春夏秋冬のデザインができるでしょう。

Color&Yarn Variation

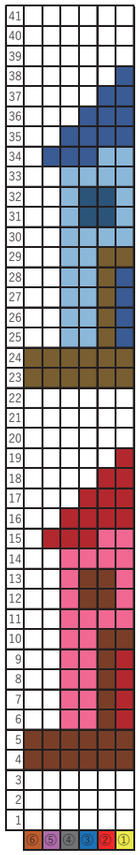


よこ糸配色図

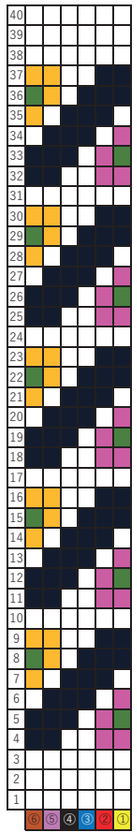
89



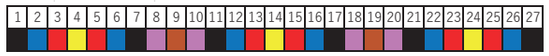
90



91



たて糸配色図（89・90・91 共通共通）



90

ハウスをイメージしたブンデンローゼンゴンです。このモチーフも段数によってドアと窓のバランスなどを調整できます。

Color&Yarn Variation



91

花畑をモチーフにしたブンデンローゼンゴンです。89、90とこの91は、たて糸も織る順番も同じグループなのでデザインも組み合わせることができます。

Color&Yarn Variation



90



91

